

## 5章 今後の進め方

- 1 関連計画との協働による総合的な都市づくりに向けて
- 2 効果的・効率的な都市づくりに向けて
- 3 市民協働による都市づくりの推進

## 1 関連計画との協働による総合的な都市づくりに向けて

都市マスタープランは、第7次熊本市総合計画を上位計画とした、都市計画分野における最上位の方針ですが、都市マスタープランだけでは総合的な都市づくりに取り組みません。

交通・住宅・自然環境など、各分野の方針を示した個別計画が連携し、都市づくりを進めていく必要があります。

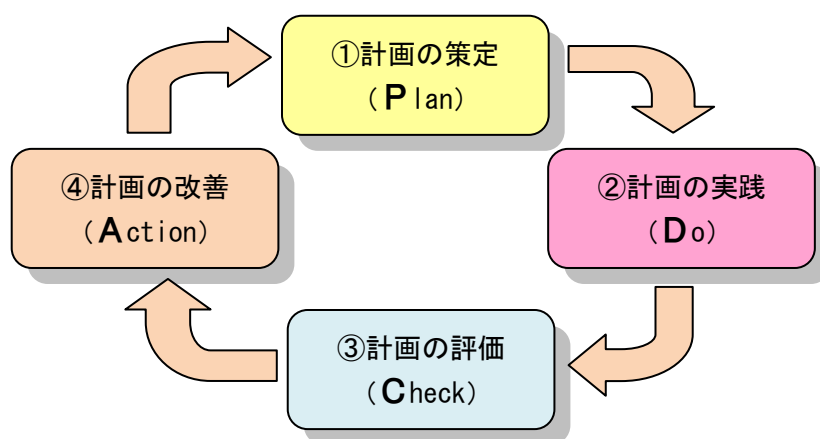
今後このマスタープランを受け、個別計画の新規策定や既存計画の見直しが行われる際には、コンパクトで持続可能な「多核連携都市」の実現に向けた観点を盛り込むとともに、各分野の個別計画相互の連携により、本市の総合的な多核連携都市づくりを効果的に推進します。

## 2 効果的・効率的な都市づくりに向けて

計画段階、事業化段階などの適切な段階において、適切な評価・見直し（計画管理：PDCA）を行い、効果的・効率的な都市づくりに取り組みます。

また、熊本都市圏の広域交流拠点として、都市圏の一体的な発展に向けて、都市相互に補完協力により、魅力ある熊本都市圏の創造に取り組みます。

上位計画の見直しや社会情勢の変化などが、都市マスタープランの方針に大きな影響を及ぼす場合には、状況に応じた適切な内容とするため必要に応じて見直しを図ります。



▲ 効果的な計画管理

### 3 市民協働による都市づくりの推進

都市マスタープランを基本とした長期的な都市づくりは、市民等（市民、地域団体、NPO、事業者など）と行政が、それぞれの役割と責任を明確にして、市民協働による都市づくりを推進していきます。

#### (1) 市民等の役割

##### ①市民の役割

市民は、行政が進める都市づくりに理解と協力だけではなく、生活の場である生活拠点や地域拠点での地域活動への参加、良好な地域環境を保全・改善するための地域独自のルールづくりと法令の遵守、地域固有の課題の解決に主体的にかかわっていくことが重要です。

さらに、市民協働による都市づくりの推進に向けて、行政へのアイデア提案などにより、積極的に都市づくりに関わることを期待されます。

また、日頃から地域での相互交流を深め、災害時の備えやいざという時のための判断力・行動力の強化に努める必要があります。

②地域の役割個人での取り組み以外にも、地域団体やNPOなどの多様な組織体制のもと、多方面で都市づくり活動を推進していくことが考えられるため、そのような場を活用し積極的に関わっていくことが重要です。

また、校区防災連絡会、自主防災クラブ、自治会等の活動を通じ、日頃から地域コミュニティの維持・発展に取り組むとともに、災害時に互いに支え合う地域力の強化に努める必要があります。

③事業者の役割事業者は、市民に愛着を持たれ、地域とともに成長する企業となるため、市民とともに地域の都市づくりに積極的に関わっていくことが重要です。

#### (2) 行政の役割

市は、都市マスタープランなどの行政計画に基づき、都市計画の見直し、道路や公園などの都市基盤の整備などを行うとともに、熊本都市圏の中心であることから、周辺自治体、国や県とともに、熊本都市圏の一体的な発展に向けて取り組みます。

さらに、各まちづくりセンターに配置した地域担当職員をはじめ、市職員が積極的に地域に飛び込み、住民等への都市づくり・都市計画に関する情報提供、住民主体の都市づくりの取り組みの支援、地域づくりに参加する事業者の支援などにより、市民等の積極的な都市づくりを支援します。

また、市民の安全と安心を確保するため、防災体制・組織の強化や対策を着実に進めるとともに、校区防災連絡会の取組みなどを通じて、市民、地域の自発的な防災活動の促進を図り、災害時には市民力・地域力・行政力を結集できるよう、多様な視点からの検討、仕組みづくりや環境の整備に努めます。

